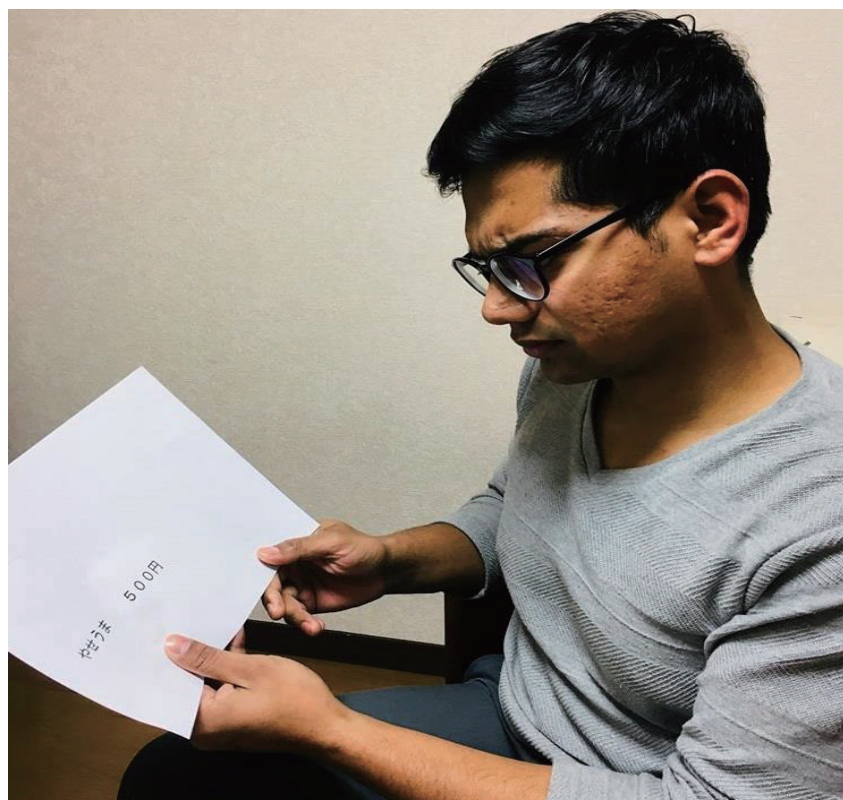


# やせうま



朗読音声のダウンロード  
Audio download

## ★読む前に Before you read

### 《多読の読み方》

多読とは、とてもやさしい本から楽しくたくさん読んで日本語を身につけていく方法です。

次の4つのルールを守って楽しく読みましょう。

1. やさしいレベルから読む
2. 辞書を引かないで読む
3. わからないところは、とばして読む
4. 進まなくなったら、他の本を読む



### 《How to do Tadoku》

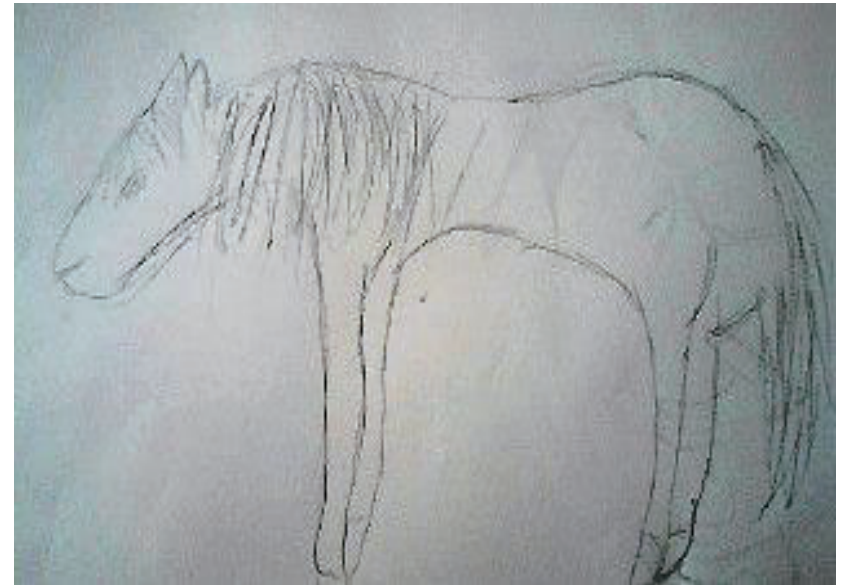
Tadoku recommends that everyone should start with very easy books and enjoy a lot of them following the 'Four Golden Rules' below.

1. Start from scratch.
2. Don't use a dictionary.
3. Skip over difficult words, phrases and passages.
4. When the going gets tough, quit the book and pick up another.



やせている<sup>うま</sup>馬ですか。

「やせ<sup>し</sup>うま」を知っていますか。



いいえ、やせうまは<sup>どうぶつ</sup>動物ではありません。  
<sup>おおいた</sup>大分の<sup>ゆうめい</sup>有名な<sup>た</sup>食べ物<sup>もの</sup>です。  
<sup>た</sup>食べたことがありますか。



これがやせうまです。



<sup>こむぎ</sup>小麦<sup>こ</sup>粉<sup>つく</sup>で作ります。  
うどんのような<sup>た</sup>食べ物<sup>もの</sup>ですが、<sup>あま</sup>甘い<sup>です</sup>。  
<sup>さとう</sup>砂糖<sup>こ</sup>ときな<sup>た</sup>粉<sup>で</sup>食べます。



おもしろい名前なまえですね。

どうして「やせうま」という名前なまえでしょうか。

へいあんじだい  
平安時代(794-1192)にこんなお話はなしがあります。

きょうと かねも いえ つるきよまる げんき おとこ こ  
京都のお金持ちの家に、鶴清麿という元気な男の子が

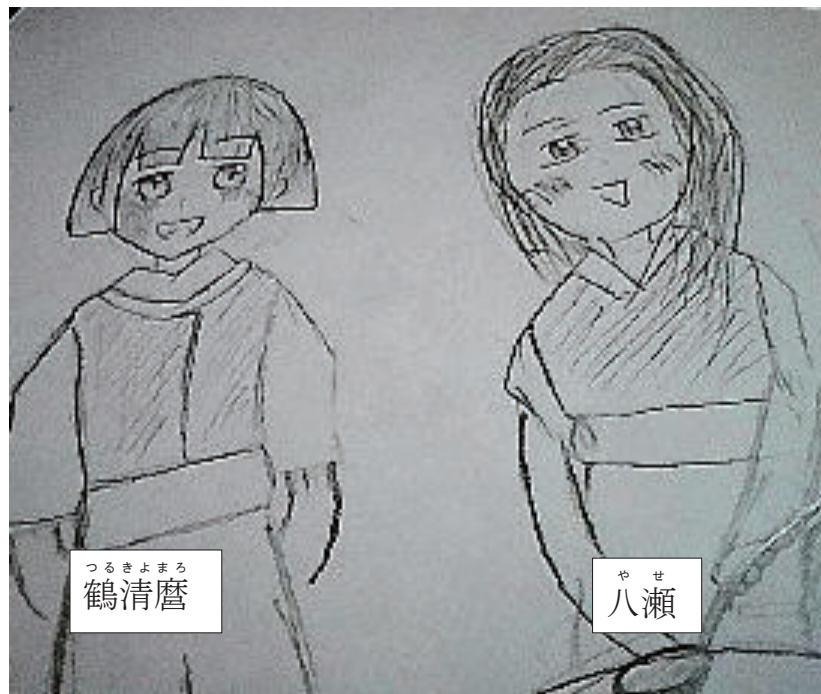
いました。やせ おんな ひと おとこ こ せわ  
八瀬という女の人がこの男の子の世話をし

ていました。ふたり きょうと おおいた き せいかつ はじ  
二人は、京都から大分に来て、生活を始め

ました。つるきよまる きんじょ こども まいにちげんき あそ  
鶴清麿は近所の子供たちと毎日元気に遊んで

いました。

ある日、鶴清磨<sup>ひ つるきよまる</sup>はおなかがすいて、「おいしい物<sup>もの</sup>を作<sup>つく</sup>って」と八瀬<sup>や せ</sup>に言いました。八瀬<sup>や せ</sup>は、小麦粉<sup>こ むぎ こ</sup>ときな粉<sup>こ</sup>を使<sup>つか</sup>って甘い<sup>あま</sup>食べ物<sup>た もの</sup>を作りました。



鶴清磨<sup>つるきよまる</sup>は「八瀬<sup>や せ</sup>、うま、うま」と言いながら、ぜんぶ食<sup>い</sup>べました。「うま」は、おいしい<sup>い み</sup>という意味です。鶴清<sup>つるきよ</sup>磨<sup>まる</sup>は、これが食べ<sup>た</sup>たいとき、いつも「八瀬<sup>や せ</sup>、うま、うま」と言<sup>い</sup>いました。それで、この料理<sup>りょう り</sup>の名<sup>な</sup>前は「やせうま」になりました。



やせうまは、大分<sup>おおいた</sup>で食<sup>た</sup>べることができます。

350<sup>えん</sup>円<sup>えん</sup>～500<sup>えん</sup>円<sup>えん</sup>ぐらいです。

ぜひ食<sup>た</sup>べてみてください。



ちよしや かつきま ゆみ  
著者：香月真由美

おおいたはつ よ かいいん  
(大分発わくわく読みものをつくる会 会員)

協力：NP0多言語多読 (<https://tadoku.org>)

写真提供：別府市観光協会

写真協力：Shaikat Hasan

渡辺若菜

甘味茶屋

イラスト：香月七海

参考資料：『大分の伝統料理』(1988) 大分合同新聞社

『につぼんのおやつ』(2015) 白央篤司

はさまちょうし  
『挾間町誌』(1984) 挾間町誌編集委員会編

『挾間町の伝説と民話～古人より 第1集』(2004) 挾間町教育委員会編

ほん なか しやしん にじしよう きん  
この本の中のイラストや写真の二次使用を禁じます。

